

講演会型（小学校）

学校名等	池田町立宮地小学校
実施日時	平成29年5月20日(土) 10時15分～
会場	宮地小学校 体育館
参加人数	児童82名 保護者、教職員約60名 合計約140名
学習課題(分野)	P T A親子ふれあい講演会
運営者の願い	池田町は、「健康と福祉のまち」として、福祉活動に力を入れている。本校では、福祉施設を訪問したり、福祉活動に役立ててもらおうとアルミ缶回収を行ったりしている。 そこで、視覚障がいのある方の介助をする盲導犬の活動を通して、親子で今一度福祉を見直す機会として、盲導犬について学ぶ機会を設定した。

学 習 の 内 容

<活動内容>

○中部盲導犬協会から講師を招き、盲導犬の働きについて話を聞く。

- ①盲導犬とは
 - ②盲導犬になるまでには
 - ③盲導犬を見かけたら
 - ④盲導犬を体験(児童がアイマスクをして盲導犬に誘導される)
 - ⑤盲導犬を育てる条件
 - ⑥身体障害者補助犬法について
- 講演終了後、一緒に連れてきてもらった盲導犬と触れ合うことができた。



<講演会を終えて>

○講演の最後に、質問の時間を設け、児童からの質問を受けた。

質問にあったのは、

「盲導犬ユーザーに何かあったら盲導犬はどうなるの？」

「訓練したことは、忘れないの？」

など、講演を聞いて疑問に思ったことをたくさんの児童が質問できた。中には、低学年の児童もいて、関心をもって聞いていたことが分かる。

最初は、盲導犬を見てかわいいと思っていた児童も、講演が進むにつれて真剣に話を聞いていた。講師の方に分かりやすくお話しいただけたことで、参加者全員、興味や関心をもって聞くことができた。

<保護者アンケートより>

○次のような感想をいただいた。

- ・わかりやすくお話をしていただいたのでよかった。講演会の翌日、公共施設に出かけた際に、スタンドの応援席を指さして、「あの中に、盲導犬が入ろうとして断られたら、入れるんだよと言って説明してあげたい。」と言っていた。低学年ですが、子どもなりに理解し受け止めていると思い嬉しかった。
- ・何か特別だということではなく、同じ人間が同じように生活をする。講師の方の「同じだよね。」という問いかけが心に残った。福祉は特別なものだと、やはり子どもは考えていると思う。眼鏡を掛けていることと変わらない、そういった認識を子どもにもっと伝えていけたらと思った。困っている人に、「お手伝いしましょうか。」と自然に言える気持ちになれるように、コミュニケーション力から学んでほしいと思った。
- ・盲導犬をあまり見かけないから関心も薄く、どこか他人事で距離を置いてしまうところもあった。障がい者と健常者の壁は、子どもより大人の方があると思う。私たちの関わり一つで子どもの受け止め方も変わってくると思うので、子どもに壁を作らせない関わりが私自らできたらと思える時間だった。



児童に、「福祉の町いけだ」をイメージさせるために、盲導犬の活動はぜひ見せたい、知らせたい活動だった。



福祉という難しいテーマであったこと、1年生から6年生までがいっしょにお話を聞くということなど、難しさはあったけれど、目の前にいる盲導犬を見たことで、児童の興味は非常に高くなった。